

1st Euro – Asia Zeolite Conference (EAZC2013) 参加報告

横浜国立大学大学院環境情報学府
佐藤可久

2013年1月20～23日にかけて、標記学会がマカオ（中華人民共和国）の Venetian Macao Resort Hotel において開催されました。今年、特に冷え込みの厳しい日本と異なり、暖かな気候のマカオは過ごしやすく感じられたのではないのでしょうか？

今回初の開催となる EAZC ではアジアを中心とした各国から 100 名ほどの参加者が集まり、特に中国からの参加者が多く見受けられました（日本からの参加者は 6 名）。21～23 日の 3 日間にかけて、Plenary Lecture 6 件、Invited Lecture 12 件、Invited Talk 1 件、Keynote Lecture 12 件、Short Oral 12 件と Poster 発表 50 件が行われました。会場が一つということも相まって、一日当たり 14 人の発表と非常に密度の濃い 3 日間となりました。ただ、発表が長引くことがしばしば見られ、時間を押す格好になることがありました。

発表内容にはゼオライト（類似物質含む）合成から触媒、キャラクターゼーションなど多岐に亘り、特に Metal Organic Framework に関するものが目立って多かったように見受けられました。ポスター発表は 22 日と 23 日の二日間で行われ、一日につき 25 件の発表が行われました。Oral 発表の後に同会場で行われ、1 時間程ではありましたが、活発に議論が交わされました。

また、20 日には Welcome reception, 22 日にはホテル内で Conference Dinner も行われました。筆者は到着が遅く、Welcome reception には参加できませんでしたが、Conference Dinner では料理とお酒、ポルトガル由来と思いきショーなどを楽しみ、交流を行いました。なお、Venetian Macao Resort Hotel はマカオ屈指の人気のリゾートホテルであり、ホテル内に完



備されたカジノやショッピングを楽しまれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

最終日には Round Table Discussion および Closing Ceremony が行われ、第一回 EAZC の締めとなりました。以上をもちまして参加報告とさせていただきます。